

二年次履修科目

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
情報科学と統計	2	30	2年前期	浅尾 秀樹
科目的ねらい				
医療・保健系データをもとに統計処理の基礎的理論と方法を理解し、情報機器操作により文書・発表物の作成・編集、プレゼンテーション能力を高める。				
教科書 : 医療系のための情報リテラシー 東京図書 (¥2,200)				
参考文献 : 都度紹介				
SPSSによる統計処理の手順 第7版 石村貞夫・石村光資郎 東京図書				
生命科学・医療系のための情報リテラシー 第2版 丸善出版 ¥3,000				
情報リテラシーOffice2016 実教出版				
評価方法 : 単位認定試験：優(80点以上)、良(70点以上)、可(60点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方				
この授業の到達点は以下である。				
①医療・保健統計等のデータについて、統計処理の基礎的事項によって考察することができる				
②Word、Excel、Power Point を使って文書や図表、発表物、掲示物などを作成・編集できる				
③SPSSの基礎的な操作ができ、医療系のデータから必要な結論を推定できる				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	講義ガイダンス、Word 操作	2	自己プロフィール作成、表の挿入、書式設定など	演習
2	Word (作表、履歴書作成)	2	写真・図の挿入、	演習
3	Word (病院・イベント案内文書)	2	段組み、文書編集、表現力を工夫する	演習
4	Excel (基礎知識、表の作成)	2	連続データ入力、罫線、関数式の入力、書式など	演習
5	Excel (関数式、早退・絶対参照)	2	棒、折れ線、円、帯、複合、レーダーチャートなど	演習
6	Excel (グラフと図形)	2	ナイチンゲールの Bat's Wing グラフ、散布図、相関	演習
7	Excel (ピボットテーブル)	2	データの集計、クロス集計、分析	演習
8	Power Point (スライド作成)	2	テーマ設定、入力・編集、表示モード、スライド複製など	演習
9	Power Point (加工・編集)	2	図表、グラフの挿入、アニメーション設定	演習
10	Power Point (2	印刷・資料作成、プレゼンテーション	演習
11	統計の基礎	2	データの種類、基本統計量、標準偏差、偏差値	演習
12	検定の考え方	2	仮説検定、F 検定、スクエアーデント T 検定、有意差	演習
13	対応のない 2 群の平均値の検定	2	ウイルコクソンの順位和検定、クロス集計、カイ二乗検定	演習
14	対応のある場合とカイ 2 乗検定	2	クロス集計表、カイ二乗検定	演習
15	ノンパラメトリック検定 その他の検定例について	2	対応のある場合、対応のない場合、一元配置分散分析、相関・回帰	演習
単位修得認定試験		1	データダウンロード、グラフ作成、統計処理、Word レポート、スライド作成	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
臨床検査	1	15	2年前期	清野 孝
科目的ねらい 医療における臨床検査の役割を知り、各種検査の意義と方法を学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院				
参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100%				
評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 教科書にそってスライド等を使用して講義を進めます				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	臨床検査の基礎	2	1. 臨床検査とその役割 2. 臨床検査の流れと看護師の役割	講義
2 ~ 8	主な臨床検査	3	1. 一般検査 2. 血液学的検査	講義
		3	1. 生化学検査 2. 免疫・血清学的検査	講義
		3	1. 内分泌学的検査 2. 微生物学的検査 3. 病理検査	講義
		4	1. 生理機能検査 循環機能検査 血圧 標準 12誘導心電図 ホルター心電図 パルスオキシメーター (実際に体験、モデル見学する) 呼吸機能検査 スピロメトリー他 神経機能検査 脳波検査 他 2. 画像検査 超音波検査 磁気共鳴画像(MRI)検査 サーモグラフィ 3. 内視鏡検査	講義
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
病態と治療Ⅲ	1	30	2年前期	山本哲三 杉本信志 前川 浩 永森克志 杉山雅子 島村 佳一

科目のねらい

疾患の病態、治療検査を理解しその疾患のもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う

教科書	:	系統看護学講座 専門分野II 女性生殖器 成人看護学⑨ 医学書院
		系統看護学講座 専門分野II 脳・神経 成人看護学⑦ 医学書院
		系統看護学講座 専門分野II 眼 成人看護学⑬ 医学書院
		系統看護学講座 専門分野II 皮膚 成人看護学⑫ 医学書院
		系統看護学講座 専門分野II 齒・口腔 成人看護学⑮ 医学書院
		系統看護学講座 専門分野II 耳鼻咽喉 成人看護学⑭ 医学書院

参考文献 : 都度紹介

評価方法 : 筆記試験 100%(山本 20% 杉本 20% 前川 15% 永森 15% 杉山 15% 島村 15%)

評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする

授業の進め方

解剖生理学の復習をしながら、主に臨床で遭遇する代表疾患について講義します

単元： 生殖器系	担当講師：山本哲三	単元： 皮膚科	担当講師：永森克志
単元： 脳・神経	担当講師：杉本信志	単元： 歯科	担当講師：杉山雅子
単元： 眼科	担当講師：前川 浩	単元： 耳鼻科	担当講師：島村佳一

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1			1. 女性生殖器の構造と機能 ・外性器、乳房、内性器	
2	女性生殖器の病態と 検査治療処置	4	2. 症状とその病態生理 ・ショック、出血、帶下、疼痛 3. 診察・検査と治療・処置 ・内診、細胞診、超音波検査 染色体・遺伝子検査 ・腹腔穿刺・ダグラス窩穿刺 ・ホルモン療法、避妊 4. 疾患の理解 ・子宮がん、卵巣腫瘍、乳がん 月経異常、胞状奇胎、更年期障害	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
3			1. 脳・神経の構造と機能 ・脳、脊髄、神経系、脳室、脳脊髄液、脳血管 ・運動機能、感覺機能	
4				
5				
6	脳・神経系の病態と 検査治療処置	10	2. 症状とその病態生理 ・意識障害、高次脳機能障害、運動・感覺機能 障害、頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア、髄膜刺激症状 3. 検査・診断と治療・処置 ・CT、MRI、脳血管撮影、脳波、髄液検査 ・開頭手術、V-P シヤント 4. 疾患の理解 ・くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、脳腫瘍 頭部外傷、水頭症、髄膜炎 ・キラッパレー症候群、筋ジストロフィー 筋萎縮性側索硬化症、てんかん、認知症	講義
7				
8				
9	眼科疾患の病態と 検査治療処置	4	1. 眼の構造と機能 2. 症状とその病態 ・視力障害、視野異常、眼痛 3. 検査と治療 ・視力検査、眼底検査 ・点眼法、光凝固、屈折矯正、手術療法 4. 疾患の理解 ・近視、老視、斜視、眼振、結膜炎 網膜剥離、白内障、緑内障	講義
10				
11	皮膚科疾患の病態と 検査治療処置	4	1. 皮膚の構造と機能 2. 症状とその病態生理 ・原発疹、続発疹、搔痒、皮疹、皮膚の老化 3. 検査と治療・処置 ・免疫・アレルギー検査 ・外用薬、光線療法、レーザー療法、凍結療法 4. 疾患の理解 ・皮膚炎、蕁麻疹、乾癬、熱傷、褥瘡、黒色腫 帯状疱疹、疥癬、エリテマトーデス	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
12				
13	歯科疾患の病態と 検査治療処置	4	1. 歯の構造と口腔内の主な名称の復習 2. 歯科の臨床の主な科目を知る 3. う蝕、歯周疾患の治療 4. 口腔軟組織の病変 5. 口腔ケアとは 6. 誤嚥性肺炎 7. 義歯の取り扱いと義歯使用の患者の ケア	講義
14				
15	耳鼻科疾患の病態と 検査治療処置	4	1. 耳鼻咽喉・頸部の構造と機能 2. 症状とその病態生理 • 難聴、耳鳴、眩暈、鼻出血、嚥下障害 3. 検査と治療 • 聴力検査、平衡機能検査、味覚検査 • 点耳、鼓膜切開、点鼻、洗浄、吸入 4. 疾患の理解 • 外・中・内耳炎、メニエール病 副鼻腔炎、咽頭喉頭がん、鼻アレルギー	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
治療法概論	1	30	2年後期	吉田 秀明
科目のねらい				
外科疾患の病態、治療検査を理解しその疾患患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う				
教科書 : 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院				
参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100%				
評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方				
教科書、スライド(パワーポイント)を併用して進めます				

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	外科患者の病態の基礎	8	1. 外科的基本手技 ・縫合と抜糸、止血、創傷管理 2. 低侵襲治療 3. 内視鏡治療 4. 外科的治療 ・外科的治療の特徴と手術適応 乳房切除患者 消化器及び腹部疾患 5. 臓器移植の基礎知識	講義
2				スライド
3				
4				
5	外科的治療を支える分野	10	1. 麻酔法 ・麻酔とは ・全身麻酔(吸入麻酔・静脈麻酔) ・局所麻酔(脊髄・硬膜外麻酔) ・局所麻酔、術前・術中・術後管理 2. 呼吸管理 3. 体液・栄養管理 ・中心静脈栄養法、経腸栄養法 4. 輸血療法 5. 緩和医療 6. 痛み緩和 7. 患者の自己決定権とインフォームドコンセント	講義
6				スライド
7				
8				
9				

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
10	外科的治療の実際	8	1. 外科的治療の近年の傾向と特徴	
11	救急処置法		2. 手術侵襲と生体の反応	講義
12			3. 炎症の外科的治療	スライド
13			4. 外科感染症（SSI 予防）	
			5. 腫瘍の診断と治療	
			6. 外傷とショック	
			7. 救急処置法の原則	
			8. 心肺蘇生法（CPR）	
14	放射線療法	4	1. 放射線医学の成り立ちと意義	
15			2. 画像診断 ・X線、 CT 、 MRI、 超音波、核医学	講義
			3. 放射線治療 ・放射線の種類 ・正常組織の有害反応、治療可能比 ・放射線治療の特徴と目的	スライド
			4. 放射線防護 ・放射線障害、放射線防護	
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
社会福祉	1	30	2年前期	古井 寿
科目のねらい				
社会福祉の意義と概念、社会福祉制度と社会保障制度について学ぶ 社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の視点、方法について学び、医療・看護との連携の理解を深める				
教科書 : 系統看護学講座専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③医学書院 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100%				
評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 基本的に教科書を使用して進めます 個別援助技術では一部 DVD 教材を使用します				

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1	社会福祉の基礎概念	2	1. 社会福祉の全体像 2. 社会福祉の歴史 3. 社会福祉の基礎概念	講義
2	社会保障制度と社会福祉	4	1. 社会保障制度	講義
3			2. 社会福祉の法制度 3. 社会保障・社会福祉の動向	
4	医療保障	4	1. 医療保障制度の沿革	講義
5			2. 医療保障制度の構造と体系 3. 健康保険と国民健康保険 4. 高齢者医療制度 5. 保険診療のしくみ	
6	介護保障	4	1. 介護保険制度創設の背景と介護保険の歴史	講義
7			2. 介護保険制度の概要 3. 介護保険制度の課題と展望	
8	所得保障	4	1. 所得保障制度のしくみ	講義
9			2. 年金保険制度 3. 社会手当 4. 労働保険制度	
10	公的扶助	4	1. 貧困・低所得問題と公的扶助	講義
11			2. 生活保護制度のしくみ 3. 低所得者対策と近年の動向	

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1 2			1. 高齢者福祉	
1 3	社会福祉の分野とサービス	6	2. 障がい者福祉 3. 児童家庭福祉	講義
1 4			1. 社会福祉援助とは	
1 5	社会福祉実践と医療・看護	2	2. 個別援助技術(ケースワーク) 3. 集団援助技術 4. 間接援助技術と関連援助技術 5. 社会福祉援助の検討課題 6. 連携の重要性 7. 社会福祉実践と医療・看護の連携 8. 連携の場面とその方法 社会福祉の基礎概念	講義 DVD
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
地域医療論	1	15	2年前期	永森克志 櫻井美奈子
科目のねらい				
地域における地域看護活動を学ぶ 地域医療のしくみやつながり、医療と介護のつながりを学ぶ 継続看護のための連携、各専門職の協働について学ぶ				
教科書 : 看護師教育のための地域看護概説 ヌーベルヒロカワ				
参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% (永森 レポート評価 30% 櫻井 筆記試験 70%)				
評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方				
教科書を中心に事例を提供しながら進めていきます				
単元：地域医療の現状と活動の概要		担当講師：永森克志		
単元：地域看護活動の方法・実際		担当講師：櫻井美奈子		

授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	地域医療の現状と活動の概要	4	1. 地域医療・僻地医療のしくみと現状 2. 地域の人々の健康と保健活動 3. 地域保健・医療・福祉と法律 4. 地域看護を取り巻く保健・医療・福祉の政策 5. さまざまな機関、職種との連携と調整 6. 家族関係の調整	D V D 講義
3	地域看護活動の方法	6	1. 地域看護活動の対象と場 2. 地域看護活動の目的 3. 地域看護活動の方法 事例にみる援助方法	講義
6	地域看護活動の実際	5	1. 地域行政機関における地域看護活動 2. 病院における地域看護活動 3. 職域における地域看護活動 4. 学校における地域看護活動 5. 地域の看護活動	D V D 講義
単位修得認定試験		1	レポート 筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
成人看護学方法論 I	1	30	2年 前期	田中悦子 磯田恵美
科目目的：急性期にある対象と家族の特徴を理解し、生命の維持と機能回復のために必要な看護を学ぶ				
目標：1. 急性期看護の特性を理解する 2. 呼吸機能障害のある対象の特徴と看護を理解する 3. 循環機能障害のある対象の特徴と看護を理解する 4. 消化機能障害のある対象の特徴と看護を理解する				
教科書：系統看護学講座 専門分野II 成人看護学総論① 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 呼吸器② 循環器③ 消化器⑤ 医学書院				
参考文献：ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護① 呼吸機能障害/循環機能障害 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護② 栄養代謝機能障害 メディカ出版				
評価方法：筆記試験 100% (田中 70%、 磯田 30%)				
評価認定：優 (80点以上)、良 (70~79点)、可 (60~69点)、不可 (60点未満) の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 1年次の解剖生理学・病態学・臨床看護総論などで学んだ知識をベースとし授業展開 していきますので、しっかりと復習をして授業を受けましょう 2. 臨地実習で遭遇する可能性がある事例を紹介しながら看護を学習していきます 3. 配布された資料はいつでも活用できるように整理・持参してください 4. 実習室で実際に体験しながら学ぶ内容もありますので、学内実習・演習の手引きを遵守し臨んでください				
単元： 急性期にある対象の看護 呼吸機能障害をもつ患者の看護	担当講師 磯田恵美			
単元： 消化機能障害をもつ患者の看護 循環機能障害をもつ患者の看護	担当講師 田中悦子			

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	急性期にあ る対象の看 護	急性期看護の概要を 理解する	10	1. 急性期にある成人期の対象と家族 1)急性期における看護の目標 2)身体的・精神的・社会的特徴	
2	呼吸機能障 害をもつ患 者の看護	呼吸機能のアセスメ ントの視点・内容・方 法を理解する		2. 呼吸器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)呼吸器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)咳嗽・喀痰 (2)血痰・咯血 (3)胸痛 (4)呼吸困難	
3		呼吸機能の障害が対 象の生活に及ぼす影 響を理解する		3)検査を受ける患者の看護 (1)呼吸機能検査 (2)動脈血ガス分析 (3)気管支鏡検査 (4)肺生検	
4		呼吸機能の維持・回復 に向けた看護を理解 する			講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(5)胸腔穿刺 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)肺理学療法（体位ドレナージ） (2)吸入療法 (3)酸素療法 (4)人工呼吸器 (5)胸腔ドレナージ 5) 代表的な呼吸機能障害をもつ患者のアセスメントと看護 (1)肺炎患者の看護 (2)肺がん患者の看護 (3)気管支喘息患者の看護 (4)慢性閉塞性肺疾患患者の看護 (5)自然気胸患者の看護	講義 体験学習 (体位ドレナージ)
6	循環機能障害をもつ患者の看護	循環機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する	10	1. 循環器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)循環器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)胸痛 (2)動悸 (3)呼吸困難 (4)浮腫 (5)チアノーゼ (6)めまい・失神 (7)四肢の疼痛 3)検査を受ける患者の看護 (1)心電図 (2)血行動態モニタリング (3)心臓カテーテル検査 (CAG) 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)冠状動脈インターベンション (2)冠状動脈バイパス術 (3)ペースメーカー治療 (4)弁置換術・弁形成術 5)心臓リハビリテーションと看護 6) 代表的な循環機能障害をもつ患者のアセスメントと看護 (1)虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）患者の看護 (2)心不全患者の看護 (3)不整脈患者の看護 (4)動脈系疾患（大動脈解離・下肢動脈閉塞症）患者の看護	講義 体験学習 (心電図の装着)
7	循環機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する				
8	循環機能の維持・回復に向けた看護を理解する				
9					
10					

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
11	消化機能障害をもつ患者の看護	消化機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する	10	1. 消化器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)消化器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)嚥下困難 (2)おくび・胸やけ (3)嘔気・嘔吐 (4)腹痛 (5)吐血・下血 (6)下痢・便秘 (7)腹部膨満 (8)食欲不振・体重減少 (9)腹水 (10)黄疸 3)検査を受ける患者の看護 (1)造影検査 (2)腹部超音波検査 (3)内視鏡検査 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)栄養療法・食事療法 (2)胃瘻・空腸瘻の造設 5) 代表的な消化機能障害をもつ患者のアセスメントと看護 (1)食道がん患者の看護 (2)胃・十二指腸潰瘍患者の看護 (3)胆道・胆のう炎患者の看護 (4)肝炎・肝硬変患者の看護 (5)大腸がん患者の看護 (6)急性膵炎患者の看護	
12					
13					
14					
15					
単位修得認定試験		1	筆記試験		講義

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
成人看護学方法論Ⅱ	1	30	2年 前期	畠山 智 三上麻美
科目目的：周手術期にある対象と家族の特徴を理解し、周手術過程に応じた看護を展開するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける				
目標：1. 周手術期看護の特性を理解できる 2. 周手術各期（術前・術中・術後）の看護の特徴・役割・方法を理解できる 3. 術後回復を促進する看護技術（酸素吸入法・吸引法・包帯法）を習得する 4. 紙上事例による看護過程の展開を通して、成人期にある対象と家族に対して必要な看護を導き出す思考過程を養う				
教科書：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・各論 医学書院 参考文献：成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂 成人看護学 成人看護技術 生きた臨床技術を学び看護実践力を高める 南江堂 ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周手術期看護 メディカ出版 看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術 メヂカルフレンド社				
評価方法：筆記試験(畠山 70%) 看護過程演習評価表（三上 30%）				
評価認定：優（80点以上）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 同時期に進行中の治療法概論の内容も踏まえながら授業展開していきます 2. 学内実習は事前課題→講義→実習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます 3. 臨地実習で遭遇する可能性がある事例を紹介しながら看護を学習していきます 4. 配布された資料はいつでも活用できるように整理・持参してください 5. 看護過程演習は、周手術期にある対象の事例で展開します				
単元：周手術期にある対象の看護 術後の回復を促す看護技術	担当講師： 畠山 智			
単元：看護過程	担当講師： 三上 麻美			

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	周手術期に ある対象の 看護	周手術期看護の概要 を理解できる	2	1. 周手術期看護の概論 1)手術を受ける患者の状況 (1)手術の種類と適応 (2)生体反応と回復過程 2)チーム医療と看護師の役割 3)周手術期における安全管理	
2		周手術期にある対象 の特徴を理解できる		2. 手術前患者の看護 1)手術前の看護の要点・看護師の役割 2)術前準備 (1)手術前のオリエンテーション (2)手術に向けての身体準備 (3)手術室看護師の術前訪問 (4)手術前日・当日の準備	講義
3		術前における看護の 特徴・役割・方法を理 解する			
4		術前患者に対するア セスメントの視点を 理解する			

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		術中における看護の特徴・役割・方法を理解する 術中患者に対するアセスメントの視点を理解する	4	3. 手術中患者の看護 1)手術中の看護の要点・看護師の役割 2)手術室の環境管理 (1)手術室の構造・設備 (2)無菌操作 3)入室時の看護 4)麻酔導入時の看護 5)手術中の看護 (1)器械だし (2)間接介助 6)手術終了時の看護	講義
		術後における看護の特徴・役割・方法を理解する 術後患者に対するアセスメントの視点を理解する	6	4. 手術後患者の看護 1)手術後の看護の要点・看護師の役割 2)術後合併症の予防と看護 (1)呼吸器合併症 (2)循環器合併症 (3)術後イレウス (4)術後出血 (5)術後感染 (6)縫合不全 (7)術後せん妄 3)主要な手術を受ける患者の看護 (1)乳房切除術患者の看護 (2)胃切除術患者の看護 4)創傷治癒の看護 (1)創傷処置 (2)ドレーン管理 5)集中治療を受ける患者の看護	講義
		無菌操作の基本を理解し、創傷の早期治癒を促すための技術を原理・原則に基づいて実施できる	2	5. 学内実習 1)項目：無菌操作・創傷処置 2)方法 (1)事前課題 ①援助計画書の熟読・DVD 視聴 ②援助計画書に沿った技術練習 (2)学内実習の進め方 ①1 グループ 5 名で「実施者」「介助者」「患者役」「実施者及び介助者の観察者」をローテーションしながら行う ②援助計画書に沿った技術の実施 ③技術評価 (3)リフレクションシートの記載	学内実習 DVD

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8	術後の回復	酸素吸入法・吸引法・	4	1. 学内実習	
9	を促す看護 技術	包帯法の目的を理解 し、原理・原則に基づ いて技術を実施でき る		1)項目：酸素吸入法・吸引法・包帯法 2)方法 (1)事前課題 ①学習ノートの作成 a.酸素吸入法 ・酸素の運搬機能 ・酸素吸入療法の概要 ・酸素吸入療法の方法 b.吸引法 ・口腔・鼻腔～気道・気管支・肺の 構造 ・目的・根拠・方法 c.包帯法（体験学習） ・目的・種類・注意点 ②援助計画書の熟読・DVD 視聴 ③援助計画書に沿った技術練習 (2)学内実習の進め方 ①グループ単位で「酸素吸入法」「吸 引法」「包帯法」をローテーション する ②援助計画書に沿った技術の実施 ③技術評価 (3)リフレクションシートの記載	学内実習 DVD 体験学習
10	看護過程	ヘンダーソン看護論 に基づき成人期にあ る対象の健康上の課 題や生活上のニード を明らかにし、課題を 解決するために必要 な看護を導き出す思 考過程を理解する	12	1. 紙上事例による看護過程展開演習 経過別：周手術期 事例：胃がんで腹腔鏡下胃切除術を行 う患者の看護(50歳代・男性) 1)学習方法 (1)個人ワーク ①学習ノートの作成 a.発達段階・発達課題 b.疾患に関する解剖生理・病態生理 c.胃がん患者の看護 d.周手術期の看護 ②データベースの記載 ③アセスメント ④全体像(関連図) ⑤看護上の課題の優先順位の決定	個人 ワーク グループ ワーク

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(2)グループワーク ①個人ワークの学習内容を元に、看護計画を立案する (3)全体発表 ①全体像をもとに看護計画内容について発表する (4)リフレクションシートの記載 2)評価方法 成人看護過程演習評価表で評価する	
単位修得認定試験			1	筆記試験 成人看護過程演習評価表	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
成人看護学方法論III	1	30	2年 前期	鎌田たまみ 居上優香 福島亮

科目目的：回復期にある対象と家族の特徴を理解し、生活の再構築と自立を促すために必要な看護を学ぶ
慢性期にある対象と家族の特徴を理解し、自己管理を確立するために必要な看護を学ぶ

- 目標：
1. 回復期におけるリハビリテーション看護の特性を理解する
 2. 運動・脳神経機能障害のある対象の特徴と看護を理解する
 3. 慢性の経過をたどる成人期にある対象への看護の特性を理解する
 4. 腎泌尿・内分泌代謝・免疫機能障害のある対象の特徴と看護を理解する

教科書	：系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学総論① 脳・神経⑦ 運動器⑩ 腎・泌尿器⑧ 内分泌・代謝⑥ アレルギー・膠原病・感染症⑪ 医学書院
参考文献	：成人看護学 リハビリテーション看護 障害をもつ人の可能性とともに歩む 南江堂 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える 南江堂 ナーシンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント MC メディカ出版 成人看護学 慢性期看護論第3版 ヌーベルヒロカワ

評価方法	：筆記試験 100% (鎌田 50% 居上・福島 50%)
評価認定	：優 (80点以上)、良 (70~79点)、可 (60~69点)、不可 (60点未満) の4段階評価とする

授業の進め方	：1. 1年次の解剖生理学・病態学・臨床看護総論・リハビリテーションなどで学んだ知識をベースとし授業展開していきますので、しっかりと復習をして授業を受けましょう 2. 臨地実習で遭遇する可能性がある事例を紹介しながら看護を学習していきます 3. 配布された資料はいつでも活用できるように整理・持参してください
--------	--

単元	回復期にある対象の看護	担当講師	鎌田たまみ
単元	慢性期にある対象の看護 内分泌・腎泌尿器	担当講師	福島 亮
単元	慢性期にある対象の看護 自己免疫	担当講師	居上優香

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態			
1	回復期にある対象の看護	リハビリテーション看護の概要を理解する	2	1. リハビリテーション期にある成人期の対象と家族 1)回復期のリハビリテーション看護 (1)リハビリテーション (2)自立を助ける器具と看護 (3)治療・看護の一貫性と継続性 (4)社会参加・在宅療養に向けて 2)身体的・精神的・社会的特徴	講義			
2								
3								
4								
5								
6								
7								
		運動機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する	6	2. 運動器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)運動器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)神経麻痺 (2)循環障害とフォルクマン拘縮	講義			

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		<p>運動機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する</p> <p>運動機能の維持・回復に向けた看護を理解する</p>		<p>(3)疼痛 (4)出血 (5)感染 (6)深部静脈血栓症 (7)褥瘡</p> <p>3)検査を受ける患者の看護</p> <p>(1)単純X線検査 (2)磁気共鳴画像法 (MRI) (3)脊髄造影検査 (4)関節造影検査</p> <p>4)治療・処置を受ける患者の看護</p> <p>(1)保存療法 ①ギプス固定・副子固定 ②牽引療法 (2)手術療法</p> <p>5)代表的な運動器疾患をもつ患者の看護</p> <p>(1)大腿骨頸部・大転子部骨折患者の看護 (2)椎間板ヘルニア患者の看護 (3)脊髄損傷患者の看護</p>	講義
	6	<p>脳・神経機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する</p> <p>脳・神経機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する</p> <p>脳・神経機能の維持・回復に向けた看護を理解する</p>		<p>3. 脳・神経疾患をもつ患者の特徴と看護</p> <p>1)脳・神経の看護を学ぶにあたって</p> <p>2)症状・障害のアセスメントと看護</p> <p>(1)意識障害 (2)言語障害 (3)麻痺 (4)運動失調・不随意運動 (5)痙攣 (6)嚥下障害 (7)排尿障害 (8)頭蓋内圧亢進症状</p> <p>3) 検査を受ける患者の看護</p> <p>(1)頭部単純X線撮影 (2)コンピューター断層撮影 (CT) (3)磁気共鳴撮像法 (MRI) (4)脳血管撮影 (5)脳波検査 (6)筋電図検査 (7)脳脊髄液検査</p> <p>4)治療・処置を受ける患者の看護</p> <p>(1)手術療法 (2)内科的治療 (3)化学療法 (4)放射線療法</p> <p>5) 代表的な脳・神経疾患をもつ患者の看護</p> <p>(1)クモ膜下出血患者の看護 (2)脳梗塞患者の看護 (3)脳腫瘍患者の看護</p>	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(4)筋萎縮性側索硬化症の患者の看護 (5)パーキンソン病患者の看護	
8 9 10 11 12 13 14	慢性期にある対象の看護	慢性期看護の概要を理解する	2	1. 慢性期にある成人期の対象と家族 1)慢性期における看護の目標 (1)セルフマネジメント支援 (2)継続看護と退院調整 ①成人期の療養生活に使用できる社会資源 2)身体的・精神的・社会的特徴	講義
15		内分泌・代謝機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 内分泌・代謝機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 内分泌・代謝機能の維持・回復に向けた看護を理解する	6	2. 内分泌・代謝疾患を持つ患者の特徴と看護 1)内分泌・代謝の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)肥満 (2)るい瘦 (3)低・高血糖 (4)発汗異常 (5)女性化乳房 (6)テタニー 3)検査を受ける患者の看護 (1)糖負荷試験 (OGTT) (2)ホルモン負荷試験 (3)ホルモン血中・尿中濃度測定検査 (4)画像検査 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)食事療法 (2)薬物療法 (3)手術療法 5)代表的な内分泌・代謝疾患をもつ患者の看護 (1)甲状腺疾患患者の看護 (2)下垂体疾患患者の看護 (3)副腎疾患患者の看護 (4)糖尿病患者の看護	講義
		腎・泌尿機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 腎・泌尿機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する	4	3. 腎・泌尿器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)腎・泌尿器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)浮腫 (2)高血圧 (3)疼痛 (4)下部尿路症状 (5)尿の性状異常 3)検査を受ける患者の看護 (1)尿検査	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		腎・泌尿機能の維持・回復に向けた看護を理解する		(2)腎機能検査 (PSP 試験・GFR) (3)画像検査 (IVU・RP) (4)腎生検 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)透析療法 (2)腎移植 5)代表的な腎・泌尿器疾患をもつ患者の看護 (1)腎不全患者の看護 (2)ネフローゼ症候群患者の看護 (3)尿路尿管結石患者の看護 (4)前立腺肥大症患者の看護 (5)膀胱がん患者の看護	講義
		自己免疫機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 自己免疫機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 自己免疫機能の維持・回復に向けた看護を理解する	4	4. アレルギーをもつ患者の特徴と看護 1)アレルギーの看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)アナフィラキシー (2)皮膚症状 (3)眼症状 3)検査を受ける患者の看護 (1)血液検査 (2)スキンテスト (3)誘発試験・除去試験 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)アレルゲンの回避・除去 (2)薬物療法 (3)減感作療法 5)代表的なアレルギー疾患をもつ患者の看護 (1)アトピー性皮膚炎患者の看護 (2)アナフィラキシー患者の看護 5. 膜原病をもつ患者の特徴と看護 1)膜原病の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)関節痛・関節炎 (2)発熱 (3)レイノー現象 (4)皮膚・粘膜症状 (5)タンパク尿 (6)筋力低下 3)検査を受ける患者の看護 (1)血液検査 (血清・免疫学的検査) (2)穿刺検査 (3)病理組織学的検査	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)ステロイド療法 (2)免疫抑制薬 (3)抗リウマチ薬 5)代表的な膠原病をもつ患者の看護 (1)関節リウマチ患者の看護 (2)全身性エリテマトーデス患者の看護 6. 感染症をもつ患者の特徴と看護 1)感染症の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)発熱・不明熱 (2)発疹・発赤 (3)下痢 3)検査を受ける患者の看護 (1)塗抹・培養検査 (2)抗原・抗体検査 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)検体採取 (2)抗菌剤の投与 5)代表的な感染症をもつ患者の看護 (1)HIV/AIDS 患者の看護 (2)敗血症患者の看護	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験		

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
成人看護学方法論IV	1	30	2年 前期	渡辺由美 田中悦子
科目目的：がんをもつ対象と家族の特徴を理解し、長期化する療養生活を支えるために必要な看護を学ぶ 終末期にある対象と家族の特徴を理解し、最期までその人らしく生きることを支えるために必要な看護を学ぶ 救急看護の概念と対象の特徴を理解し、救急搬送時に看護を展開するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける				
目標：1. がん医療の現状とがん看護の特性を理解する 2. 緩和ケアの概要と全人的苦痛の緩和に向けた看護の役割を理解する 3. 終末期看護の特性を理解し、自らの死生観を育むことができる 4. 救急看護の特性を理解し、救急処置に必要な技術（心肺蘇生法）を習得する				
教科書：系統看護学講座 別巻 がん看護学 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学総論① 血液・造血器④ 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院				
参考文献：ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア メディカ出版 成人看護学 救急看護論 ヌーベルヒロカワ				
評価方法：筆記試験 100% (渡辺 50%、田中 50%)				
評価認定：優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方：1. 同時期に進行中の治療法概論の内容も踏まえながら授業展開していきます 2. 緩和ケアのDVD視聴後にはレポート提出がありますので、形式や期限を守って提出しましょう 3. 学内演習は事前課題→講義→演習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めています 4. 配布された資料はいつでも活用できるように整理・持参してください				
単元：がんをもつ対象の看護 終末期にある対象の看護	担当講師：渡辺 由美			
単元：救急医療における対象の看護	担当講師：田中 悅子			

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	がんをもつ対象の看護	がん医療の現状を理解する	6	1. がん医療の現在と臨床経過 1)がん対策推進基本計画 2)がん患者の臨床経過 (1)がんの診断から治療まで (2)治療と経過観察	
2		がん看護の概要を理解する		3)がん看護の概念 (1)エビデンスに基づく看護実践 (2)がん患者の苦痛・合併症に対するマネジメント	
3		がん治療における看護の役割を理解する			講義
4					
5					
6					

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(3)がん患者とのコミュニケーション (4)セルフヘルプグループ (5)がんの予防と早期発見 4)がん治療と看護 (1)がん治療における看護の重要性 ①治療完遂 ②患者主導の治療参加 ③治療継続のための管理 ④がんリハビリテーション ⑤チームアプローチ (2)手術療法における看護 (3)薬物療法における看護 (4)放射線療法における看護 (5)外来におけるがん看護	講義
		緩和ケアの概要を理解する 緩和ケアを必要とする対象の全人的苦痛を理解する 緩和ケアにおける看護師の役割を理解する	4	2. 緩和ケア 1)緩和ケアの現状 (1)緩和ケアの理念 (2)さまざまな場における緩和ケア (3)チームアプローチ (4)倫理的課題 2)緩和ケアの対象と看護の特徴 3)緩和ケアにおける看護実践 (1)身体的ケア (2)精神的ケア (スピリチュアルケア) (3)社会的ケア (4)家族ケア	講義 DVD
		血液造血機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 血液造血機能の障害が生活に及ぼす影響を理解する 血液造血機能の維持・回復に向けた看護を理解する	2	3. 血液造血器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)血液・造血器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)貧血 (2)出血傾向 (3)白血球減少 3)検査を受ける患者の看護 (1)血液検査 (2)骨髄穿刺・骨髄生検 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)輸血療法 (2)造血幹細胞移植	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				5)代表的な造血器腫瘍の患者の看護 (1)白血病患者の看護	
7	終末期にある対象の看護	終末期看護の概要を理解する 現時点での死に対する自身の考えを表現できる	2	1. 人間にとっての死 1)死の概念 2)死の判定 3)死をめぐる倫理的課題 (1)尊厳死・安楽死 (2)鎮静(セデーション) (3)脳死 2. 危篤時に特徴的な症状と看護 (1)呼吸困難・死前喘鳴 (2)せん妄 (3)倦怠感 3. 臨終時のケア 1)臨終時の一般的な流れ 2)死亡の確認と死亡診断書 3)死後のケア 4. 遺族ケア	講義
8	救急医療にある対象の看護	救急看護の概要を理解する	2	1. 救急看護の概念 1)救急看護の定義と看護師の役割 2)わが国の救急医療体制と対応 (1)初期救急医療体制 (2)二次救急医療体制 (3)三次救急医療 3)救急看護と法的・倫理的側面	講義
9				2. 救急看護の対象の理解 1)救急患者の特徴 2)救急患者家族の特徴	
10				3. 救急患者の観察とアセスメント 1)救急看護における観察・アセスメントの特徴 2)初期観察とアセスメントの視点 3)緊急度・重症度の判断 4)各系統別の観察とアセスメント	講義
11					
12					
13					
14					
15					
		救急看護における観察の意義・特性を理解する 各部位の系統的観察方法を理解する	4	4. 主要病態に対する救急処置と看護 1)心肺停止状態への対応 (1)一次救命処置(BLS) (2)二次救命処置(ALS)	講義
		救急時に見られる主要病態に対する看護のポイントを理解する	4		

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				2)意識障害への対応 3)呼吸障害への対応 4)ショック・循環障害への対応 5)急性腹症への対応 6)体液・代謝異常への対応 7)外傷への対応 8)熱傷への対応 9)中毒への対応 10)精神症状への対応	講義
		救急処置法の原則と看護の実際を理解する	6	1. 学内演習 1)項目:心肺蘇生法 2)方法 (1)事前課題 ①学習ノートの作成 a.一次救命処置の目的・方法 b.二次救命処置の流れ・方法 ②DVD の視聴 ③心肺蘇生法の援助計画書の作成 ④援助計画書に沿った技術練習 (2)学内演習の進め方 ①グループ単位で「モデル人形による心肺蘇生法」「バックバルブマスク法人工呼吸と回復体位の体験」「BLS の意義についてのディスカッション」をローテーションする ②援助計画書に沿った技術の実施 ③技術評価 ④リフレクションシートの記載	学内演習
		単位修得認定試験	1	筆記試験	